

日本気象学会2000年度春季大会の告示

1. 期 日：2000年5月24日（水）～26日（金）
 2. 会 場：つくば国際会議場（エポカルつくば、つくば市竹園2丁目20番3号）

3. 研究発表

一般の発表は原則としてポスターとするが、申込状況に応じて一部口頭発表を実施する（下記「一般発表セッションの方法」参照）。その他に、4件の専門分科会を実施する。専門分科会では十分な時間をかけた口頭発表を行う。専門分科会のテーマは公募され、講演企画委員会の審議によって決定された（下記「講演申込要領」参照）。

講演申込方法については「講演申込要領」（下記）参照。

なお、大会のプログラムは右記のようになる予定である。

	午前	午後
第1日	専門分科会	シンポジウム・一般発表
第2日	一般発表	総会・記念講演
第3日	一般発表	専門分科会

4. シンポジウム

大会第1日（5月24日）に開催予定。テーマは「21世紀の気候変化～予測とそのもたらすもの～（予告）」。

5. 大会参加費、懇親会費

郵便振込による前納または当日受付による（前納用の振込用紙は1月号に挿入の予定）。大会当日は受付が混雑しますので、極力前納するようお願いします。

金額については1月号に挿入予定の振替用紙をご覧ください。

なお懇親会は大会第2日（5月25日）夕刻に開催予定。

講演申込要領

1. 発表の種類

- 上記の通り、一般発表（ポスター及び口頭）と専門分科会における口頭発表の2種類となる。
- 専門分科会へ申し込まれた講演は、コンピーナーの判断によって、専門分科会への採否が決定される。専門分科会に採用されなかった講演は、原則として一般発表へ変更となる。ただし、申込みの時点で申し出れば（申込用紙に選択欄あり）、不採用時に講演をキャンセルすることもできる。
- 一般発表は原則としてポスターとするが、会場の制約からポスターの掲示可能数に上限があることから、講演の一部を口頭発表によって行うこととする。講演の方法（ポスター/口頭）については講演申込時に選択できるが、必ずしも希望通りになるという保証はない。

2. 発表件数の制限

一般発表については、1講演者について異なるテーマのもの2件以内とする。この制限に抵触する申込があった場合や専門分科会からの種目変更によって制限に抵触することになった場合には、講演企画委員会が適切に処置する。

3. 申込方法

- 一般発表への申込
 - 本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて講演企画委員会に送付する。
 [セッションを的確に編成するために、申込用紙にキーワードの記入をお願いします。]
 - 申込期限：2000年2月29日（火）必着（送付先）
 〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1
 気象研究所予報研究部内
 講演企画委員会（永戸久喜）
- 専門分科会への申込
 - 本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて講演企画委員会に、また両者のコピーを各分科会の受付に送付する（送付先は下記を参照）。
 - 申込期限：2000年2月29日（火）必着（原本送付先）
 〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1
 気象研究所予報研究部内
 講演企画委員会（永戸久喜）
 - （コピー送付先）
 ①エアロゾルの気候影響について（略称：エアロゾル）

〒263-8522 千葉市弥生町1-33
 千葉大学環境リモートセンシング研
 究センター
 高村民雄

②成層圏変動と気候（略称：成層圏）

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町
 京都大学大学院理学研究科
 地球惑星科学専攻 地球物理学教室
 余田成男

③フラックス観測ネットワーク：Asia Flux の展開
 と陸域生態系における炭素・水収支研究プロジェ
 クトとの研究協力（略称：フラックス）

〒305-8569 茨城県つくば市小野川16-3

資源環境技術総合研究所 首席研究
 官

山本 晋

④バイオマス燃焼の大気化学への影響（略称：バイ
 オマス）

〒442-8507 愛知県豊川市穂の原3-13
 名古屋大学太陽地球環境研究所
 大気圏環境部門
 近藤 豊

4. その他

- (1) 講演者索引を作成するため、申込用紙には講演者
 の姓名とそのローマ字表記を明記して下さい。

一般発表セッションの方法

1. 一般発表は大会初日は夕方にポスターの概要紹介
 及びポスター発表を、その他の日は午前中に口頭
 発表及びポスターの概要紹介を行い、その後、午
 後にかけてポスター発表を行う予定である。
2. ポスター発表の概要紹介の持ち時間は1分で、
 OHPを1枚程度用いることができる。
3. 口頭発表は一件（講演・質疑あわせて）5分とし、
 ポスターの概要紹介の前に行う。発表会場はキー
 ワードに基づいて割り振るが、細かなセッション
 分けは行わない。
4. ポスター発表の時間は1時間半程度とする。ポス
 ター発表中は専門分科会は行われず、各講演者
 がポスターの前にいなければならない時間（拘束
 時間）を30分間設定する。
5. ポスターの掲示・撤去は、講演者自身が行う。掲
 示にあたって釘・ピンが使用できるが、糊・テー
 プ等は使用できない。必要な釘・ピンは各自が用
 意すること。
6. ポスターには講演題目・講演者名を明記しておく。
7. 掲示板は縦210cm×横100cm程度である。なおポ
 スターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい
 紙に分けて書いたものを当日並べても良い。

専門分科会の概要紹介

2000年春季大会では下記の通り、4件の専門分科会
 が開かれます。

①テーマ：エアロゾルの気候影響について

趣旨：最近100年程度の気候変動シミュレーションや
 将来の温暖化予測における大きな不確定要因の中にエ
 アロゾルの気候影響がある。特に、雲とエアロゾルの
 相互作用による全球規模の気候影響の大きさはほとん
 どわかっていない。そこで、これらの研究に関する研
 究発表と意見交換を行いたい。全球規模のエアロゾル
 分布、特性、放射強制力、雲の微物理構造の変化、気
 温変化解析等に関する発表歓迎。

コンビーナー：中島映至（東京大学気候システム研究
 センター）、高村民雄（千葉大学環境リモートセンシ
 ング研究センター）

②テーマ：成層圏変動と気候

趣旨：「成層圏力学過程とオゾンの変動およびその気
 候への影響」を明らかにすることを目的として、科学
 研究費特定領域研究が1999年度から2002年度までの予
 定で開始された。主要な課題は次の4つである：

- (1) オゾンなど大気微量成分の空間分布・時間変動の
 実態把握、(2) 成層圏一対流圏域の力学諸過程の時間
 空間変動の実態把握、(3) 密接に関連する力学過程・
 大気微量成分の変動機構の解明、(4) 成層圏大気の気
 候変動・環境変動への影響を解析・予測。

機動的な中規模グループによる研究の推進を図るた
 めに、モデルおよび解析に重きを置いた限られた研究
 班・人員構成となったが、この機会を活かして、観測
 分野の研究者や対流圏変動の専門家をはじめ広く気象

学会員と研究討論・交流を行いたい。

各研究代表者（宮原三郎，廣岡俊彦，塩谷雅人，高橋正明，余田成男）が研究開始状況を報告し，関連する一般講演（とくに研究班員以外による）をまじえて，じっくりと議論をする。

コンピーナー：宮原三郎（九州大学大学院理学研究科），余田成男（京都大学大学院理学研究科）

③テーマ：フラックス観測ネットワーク：Asia Fluxの展開と陸域生態系における炭素・水収支研究プロジェクトとの研究協力

趣旨：今，地球温暖化等の環境問題を軸にして，炭素や水をはじめとする物質の循環と収支の解明が重要な課題となっている。その中で，多様な陸面・陸域生態系における二酸化炭素，水蒸気，熱フラックス等の長期観測が必要になってきている。また，全球的物質収支の推定のために，またそこでの各種陸面・陸域生態系の役割を位置づけるために，フラックス観測成果の集積が重要となっている。

以上のような状況の中で日本の研究者の有志がフラックスネットワーク「アジアフラックス (Asia Flux)」を構築し，その活動を1999年9月に開始した。本分科会では，このAsia Fluxの活動内容と将来展開を紹介すると共に，1) 衛星観測とフラックス地上観測の連携，2) 森林の吸収能評価へのフラックス観測成果の活用，3) 陸面土壌水分モデルへのフラックス

観測成果の活動等のプロジェクトのついて招待講演を含めて議論する中で，Asia Fluxの展開方向と各種プロジェクトとの研究協力について深める。

コンピーナー：山本 晋（資源環境技術総合研究所），原菌芳信（農業環境技術研究所）

④テーマ：バイオマス燃焼の大気化学への影響

趣旨：対流圏オゾンは赤外放射を吸収する温室効果気体である。またオゾンの光解離から生じる水酸化ラジカルは多くの気体成分と反応し，これらを大気中から除去する作用がある。このように大気化学で中心的な役割を果たすオゾンは，対流圏で窒素酸化物，一酸化炭素，非メタン炭化水素などの前駆気体の反応により生成される。熱帯域を中心とするバイオマス燃焼によりこれらの前駆気体が多量に発生する。また，バイオマス燃焼によって，エアロゾルも大量に発生する。これらの生成は，強い対流活動・大規模循環による輸送と結びついて，オゾンやエアロゾル分布，ひいては大気循環に大きな影響を与える。近年，野外観測，データ解析，数値モデルの手法を用い，バイオマス燃焼による大気化学への影響の研究が活発に行われている。本分科会ではこれらの研究で得られた成果を発表・議論する。

コンピーナー：近藤 豊（名古屋大学太陽地球環境研究所），北 和之（東京大学大学院理学系研究科）

講演予稿集原稿の書き方

大会発表を申し込む会員は，以下の要領で予稿集原稿を作成し，本号末の申込用紙とともに講演企画委員会へ送付して下さい。

1. 原稿枚数：1件1枚
2. 用紙：A4判あるいはB4判の白紙，または本号末の予稿用紙を使う。原稿はすべてA4判に整形後，さらにB5判に縮小してダイレクト印刷される。B4判はいったんA4判に縮小コピーされるため，ハーフトーンや階調を用いた図を使用する場合，原稿はA4判が最も望ましい（ただし，A4判を使用した場合でも細かい階調は表現できない場合がある）。
3. 記入方法：用紙に直接書くか，別の用紙に書かれた文書・図表を貼る。
4. インク：墨または濃い黒色インクを使う。ワードプロセッサのインクが薄い場合には，コピーしてから使用する（インクが薄いままだと，字がかすれた

り，予稿用紙のます目が浮き出たりする場合がある）。

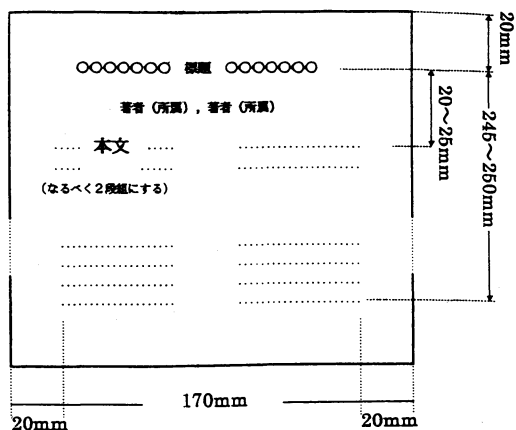


図 A4判用紙による予稿原稿の作成要領。

5. 配置

A4判用紙を使用する場合（付図参照）

記載範囲は縦250 mm 以内×横175 mm 以内とし、上部には20 mm の余白をとる。予稿用紙の場合と同様、最上段に標題、その下に著者と所属を書き、本文をその下につける。標題から本文までの間隔は25～30 mm とする。本文はなるべく2段組（左半分→右半分）にする。

その他の寸法や本文の字数・行数は、厳密に付図の通りでなくてもよい。

B4判用紙を使用する場合

記載範囲は縦305 mm 以内×横215 mm 以内とし、上部には20 mm の余白をとる。その他の寸法はA4判の場合の120%を目安とし、全体のレイアウトはA4判の場合と同様とする。

予稿用紙を使用する場合

1行目に標題を書く。標題が長ければ2行目も使う。3行目に著者名と所属（勤務先等）を書く。所属は、カッコに入れる。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつける。必要に応じて4行目も使う。5行目以下に本文を書く。本文は2段組にし、左半分→右半分の順に書く。

6. 図および表

墨または濃い黒色インクで、用紙の枠内の任意の箇所直接描くか、白紙に描いて枠内に貼る。写真や図表には折り目が入らないようにする。

7. 著作権：予稿集に掲載された文章および図表の著作権は日本気象学会に帰属する。

8. 送付先・送付期限：「講演申込要領」（853～854ページ）参照。なお、予稿集原稿を細かくおりたまないで下さい（2つ折りは可）。

非会員の大会講演について

ここ数年、気象学会の春・秋の大会では、会員でない人が講演を行う例があるようです。

気象学会の定款では“会員は、次の特典を有する。（中略）2. この法人の催す各種の学術的会合に参加すること。”（第8条）となっており、その中には当然、大会における講演も含まれます。その一方、細則では“講演企画委員会または大会委員会が承認した場合は、会員でない者も、学術的会合において講演を行うことができる”（第12条）と規定されています。

講演企画委員会では、実態をつかんだ上で、会員各位のご意見を参考にしながら、非会員の講演について“承認”の具体的な規定を作っていきたいと考えており、現在検討作業中ですが、今大会も前回と同様に以下のような措置をとります。

この件についてのご意見を、講演企画委員会（事務

局は気象研究所・永戸）までお寄せ下さい。

1. 非会員による講演の実態を把握するため、講演申込用紙に会員番号の記入欄を設ける。
2. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の講演を認める。
3. ただし専門分科会に関しては、各コンビーナーの判断にゆだねる。

なお上記の措置は、あくまでも暫定的なものであり、次回以降も継続される保証はありません。講演企画委員会としては、大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう望みます。

1999年12月 講演企画委員会

研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。具体的には、大会プログラムへの掲載、会場・機器の手配、時間の調整などが考えられます。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会へ申し込んで下さい。

申込先・申込期限：大会講演と同じ

記入事項：1. 会の名称とテーマ

2. 代表者の連絡先

3. 希望日時・開催場所

4. 予想参加人数

5. 希望する支援内容